

二〇二六年度（令和8年度）

横浜女学院中学校

D 入学試験問題

令和8年2月2日（午後）

国

語

注意

- 1 指示があるまで開けないでください。
- 2 問題は、25ページあります。
- 3 解答はすべて解答用紙に記入しなさい。
- 4 時間は50分です。

受験番号

氏 名

— 次の文章の——線①④のカタカナを漢字に、漢字をひらがなにしなさい。また、文章中の漢字の間違いを1か所ぬき出し、正しい漢字に直しなさい。

考え事をしながら、いつの間にかマリンパークに来ていた。シオカゼが顔に当たって来て、とても気持ちがいい夕方だった。砂浜をビーチサンダルで歩くと、砂が直接足にふれて、昼間に太陽がテリつけていたことだろうと創像した。カイスイヨクに多くの人がやって来ていたのだろう。今年の夏も、もう幕を下ろそうとしている。波打ちぎわに沿ってしばらく散歩したら、もう家に帰ろう。自分が悩んでいたことは、水平線に浮かんだ夕日の大きさに比べたら、針の穴からさす光のようにちっぽけなものだと思った。

二 次の記事を読んで、あとの問いに答えなさい。（字数制限のある問いは、句読点や記号も1字に数えます。）

飢餓や栄養不良の要因のひとつに貧困問題①があります。二〇二一年には三一億人（世界の総人口の四二％）の人々が健康的な食事を手に入れることができていませんでした。新型コロナウイルス禍で収入が減ったり、職を失ったりして貧困に陥る人々の数が増加し、それに拍車をかけるように食料の価格が上昇したのが大きな要因とみられています。その一方で、肥満に悩む人もまた増加しました。肥満の人が最も多いのはアメリカなどの北米です。①

アメリカの事例から考えてみましょう。二〇一七年、アメリカ疾病対策センター（CDC）の発表によると、アメリカの成人の一〇人に四人が肥満（BMIで肥満に分類される基準に達している）であることが判明しました。②

肥満はかつて、飽食による贅沢病と言われていました。③ I、今では偏った食生活をおくる貧しい人たち、とくに子

どもたちの中に、そうした傾向がより多く見られるようになってきました。③

食文化の影響もありますが、貧困層の親たちの中には料理を満足にできないといった人も多くいます。また、栄養バランスを考えられない、そのため野菜を買って食べる発想もない、経済的余裕もない、そんなケースが多くみられます。食料10費補助対策として配られる「フードスタンプ」でも、買えるものは限られてしまっています。II 価格も安く、手軽に食べられるファーストフードやジャンクフードに頼りがちになります。

他方、多くの開発途上国では、栄養不足による発育障害などの子どもの割合が高いといわれています。貧困などの理由で、栄養のバランスの取れた食料が十分手に入らない環境がこうした状況に拍車をかけています。収入が乏しく、食料の

値段が高ければ、人々は安価で、たいていは高カロリー、空腹を満たせるが栄養の少ない食品（例えばコメやパン、イモ類など）を選ぶようになります。図は、そうした悪循環を図式化したものです。食料不安に陥る理由は国や地域によって異なりますが、不安があることで栄養不良に陥り、結果的にさまざまな弊害が生まれてしまうことがわかります。国連の統計（SOFI 2018）によると、世界全体で成人の八人に一人、六億七二〇〇万人を超える人々が肥満状態です。

Ⅲ 肥満に悩む成人の割合はここ数年、上昇し続けています。

このことから浮かびあがるのは、「格差問題」②です。裕福な人は、健康を考えたバランスのよい食事をとることができるけれども、そうでない人は食事にありついただけ、空腹を満たすだけで精一杯なのです。「格差」は、日々の食事だけでなく、他にもいろいろな害を人々の中に生み出しています。

4

例えば教育ではどうでしょう。日本を例に考えてみましょう。裕福な家の子は、塾や習い事をかけもちすることが出来ます。旅行や美術館、博物館、更にはコンサートに行くといった文化的体験もできます。留学といった異文化体験も夢ではありません。

5

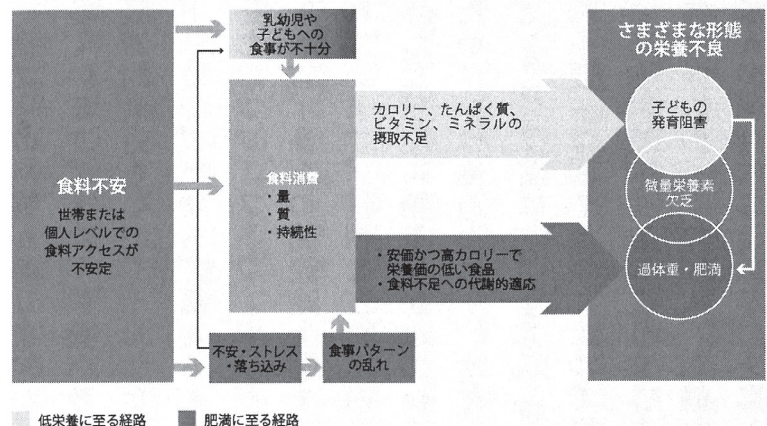


図 食料へのアクセスの不足から多様な形態の栄養不良に至るまでのルート（『世界の食料安全保障と栄養の現状 2018 年報告〈要約版〉食料安全保障と栄養の確保に向けた気候レジリエンスの構築』2019 年より）

しかし貧しい家庭の子は、そうした体験をする機会がほとんどありません。中学や高校受験のために塾に通うことも難しく、また大学に進学したくても学費の当てがなく、仮に大学に行けたとしても、奨学金しょうがくきんを借りるなど、苦学をしなくてはならないでしょう。

例えば医療いりようではどうでしょう。幸いなことに日本では、国民皆保険制度かいが運営されているため、生活保護世帯でも安心して医療にかかることができます。しかしアメリカでは、民間医療保険が中心になっていて、貧しい人は保険に入ることができません。つまり病気になっても医者にかかれない、継続的な治療が必要でも、治療をあきらめなくてはならないこともあります。更に保険料によってサービス内容が異なり、保険に費用をかけた分だけ医療の質が高くなることが特徴とくちょうです。

タイではどうでしょう。タイでも、国民のだれもが加入できる日本の国民健康保険に準じるものは設立されています。が、医療機関や医師が少ないことなどが原因で、例えば高熱が出て病院に行っても順番が来るまで長い時間待たされ、たいした診療や検査もされず、解熱剤げねつざいを処方されて帰された、という話をよく耳にします。

タイの隣国りんこくのカンボジアではどうでしょう。医療費は、生活水準に比べてかなり高額です。しかも日本のような包括的な国民皆保険制度が整備されていません。そのため医療費は基本的には全員自己負担となっています。つまり貧しい人は、病気になっても医療にかかることはむずかしいのが現実です。

SDGsの一〇番目に「人や国の不平等をなくそう」という目標が入っているのは、そうした状況を変えるためです。

国連アジア太平洋経済社会委員会（ESCAP）の統計によると、アメリカでは全国民の上位二〇%を占める富裕層ふゆちうが、国家の富の八七%を所有しているといわれています。中国では七八%、インドでも七八%、タイでは七〇%、インドネシア

では六四％、そして日本では五五％の国家の富が、上位二〇％の富裕層に所有されているという数字が出ています。このように富める者とそうでない者、富める国と貧しい国の間で経済的格差や貧富の差がどんどん開いている現在、生活の質、教育や保健衛生・健康面などでさまざまな不利益を受ける人が増えてしまっているのです。

日本はどうでしょうか。北欧の国々には及びませんが、困窮する人のためのセーフティーネットはいろいろ用意されています。生活保護や国民健康保険、失業保険、年金などの制度がそれにあたります（もっとも、支給される額が不十分だったり、厳しい条件があったり、将来にわたって健全な運営がなされるかどうか、不確かなものもあります）。

開発途上国にはそうした制度がまだ確立していないか、あっても十分機能していないところが多くあります。私が暮らすタイも日本と同様に急速に高齢化が進んでいますが、年金をもらえるのは、元公務員や、大手企業に勤務して積み立てができた元会社員たちなど、ごく一部の人たちだけです。では、それ以外の老人たちは、どうしていると思いますか？ いずれも、政府から年金の代わりに支払われるごくわずかな老齢補助金（六〇歳で月約二四〇〇円、七〇歳で月約二八〇〇円）だけで暮らしています。

⑤ こうした社会福祉制度を改善し、恵まれない人々や貧しい人たちにより手厚い支援の手を差し伸べようにも、政府の財源にも限度があります。本来なら、富める人たちからその収入にあわせて徴収する税金の額を増やしたり、相続税を導入してそれを福祉制度に活用し、貧しい人たちへの富の再配分をはかればいいと思います。しかし、タイでは、特権階級や富裕層の富を守る税制度になっていて、すぐには変わりません。また根強くはびこる汚職の体質が、富める人をますます富ませる傾向にあります。そのため貧しい人は、貧困からなかなか抜け出せません。みんなが平等で、誰一人取り残さない社

会を構築するのがSDGsの本流であるはずなのに、現実の世界では、なかなか実現される流れにはなっていません。

「Leaving No One Behind（誰一人取り残さない）」「平等で格差のない社会を築く」ことを目標にしているSDGsの精神^⑥を、私たち一人一人が、またそれぞれの国（政府）がどこまで真剣に考え、自分ごととして共有し、個人や国（政府）単^{じっせん}位で実践できるか、今、試されているように思います。

（小沼廣幸『SDGsから考える世界の食料問題』より）

問一

I

（7行目）

II

（11行目）

III

（21行目）

に当てはまる語の組み合わせとして最適なものを次より選び、

記号で答えなさい。

ア

I

だから

II

さらに

III

けれども

イ

I

ところが

II

そのうえ

III

または

ウ

I

けれども

II

したがって

III

さらに

エ

I

したがって

II

しかし

III

なぜなら

オ

I

たとえば

II

なぜなら

III

そのうえ

問二 ――線①「貧困問題」(1行目)とありますが、「貧困問題」が生じる原因の説明として最適なものを次より選び、記号で答えなさい。

ア 収入が乏^{とほ}しい人が増えて、栄養バランスの悪い食品を消費しがちになったから。

イ 新型コロナウイルス禍が地球全体に大きな影響を与えて、人々の収入が減ったから。

ウ 裕福な人になる確率が高かった肥満において、貧しい人の比率が増加してきたから。

エ 様々な国々の紛争や政治的混乱や景気の悪化により、栄養の知識が乏しくなったから。

オ 食料費補助対策として配られる食品の質が下がり、ジャンクフードに手を出すから。

問三 ――線②「格差問題」(23行目)の説明の空らんにはまる最適な語句を指定された字数に従って自分で考えて書きなさい。

説明 格差問題とは、裕福な人が良質なものを(1 十字程度)のに対して、貧しい人はそれを

(2 十字程度)という状況が生まれてしまうことである。

問四 ―― 線③「カンボジア」（41行目）の医療における問題点はどのようなものですか。次の空らんには当てはまるように文中のことばを使って60字以内で書きなさい。

カンボジアでは、（ ）

問五 ―― 線④「アメリカでは全国民の上位二〇％を占める富裕層が国家の富の八七％を所有している」（45行目）とありますが、このか所の説明として最適なものを次より選び、記号で答えなさい。

ア 上位を占めている人が二〇％もいるので、世界が不平等な状態から抜け出しそうであると示している。

イ たったの二〇％の人々が、国家の富の八七％も所有していることは、大きな格差ができていると示している。

ウ アメリカだけが特別な状態で、他の国々はこの国でも富裕層の富の所有は低いものになっていると示している。

エ 国家の富の八七％が富裕層に独占されていても、一三％も貧しい層が富を所有できていることには希望があると示している。

オ 日本はアメリカに比べて比較的良い状態であることを強調していて、五五％の富しか上位二〇％の富裕層に所有されていらないことを示している。

問六

——線⑤「こうした社会福祉制度を改善」(58行目)するためには、どのようなことが必要ですか。説明としてあやまっていますものを次より1つ選び、記号で答えなさい。

ア タイの高齢者の中で年金をもらえるのはごく一部の選ばれた人たちだけになっている制度を見直し、貧しい人にも配分されるようにシステムを作ること。

イ 年金をもらえない老人たちがごくわずかな老齢補助金だけで暮らしている状態を、相続税の導入で富裕層に支払わせてそのお金で貧しい人をサポートするように変えること。

ウ タイの国内で富裕層の特権を守り汚職がはびこっている状況を調査して、富裕層だけが優遇される状態ではなくなるようにしていくこと。

エ 恵まれない人々や貧しい人たちの声を聴きながら、限られた政府の財源の中で手厚い支援を差し伸べていくこと。

オ 限りある財源を少しでも増やすため、それぞれの収入に応じた税金の額が設定されるように法制度の見直しを図っていくこと。

問七 ———線⑥「SDGsの精神」(64行目)とありますが、「SDGsの精神」に当てはまらないものを次より1つ選び、記号で答えなさい。

ア 形が整わず売り物にならない果物を、支援団体が、経済的に苦しい子どもたちに与えて食べてもらう。

イ コーヒー畑で長時間きわめて安い給料で働いている労働者がもつと良い条件で働くことができるように、公正な条件で貿易の取引をしたコーヒー豆を勧める。

ウ これ以上農業に従事する人を減少させないために都市の再開発を中止し、都市の中に農地を確保できるようにする。

エ 学校が遠すぎて毎日通えない地域の児童に、オンラインで授業などを行い勉強ができるようにする。

オ 女性が会社で働くことに理解を得られない国の女性に仕事を紹介して、働けるように支援する。

問八 本文には次の一文が抜けています。どの部分に入りますか。入る部分を探して、1(4行目)から5(30行目)の番号を書きなさい。

収入が少なくなるほど、野菜を摂らず、脂質や糖質中心のバランスの悪い食生活に陥りやすくなるからです。

三 次の文章は寺地はるな『水を縫う』の一節です。

手芸が好きな男子高校生の清澄は、姉の水青が紺野さんと結婚するにあたって、ドレスを手作りしようとしていました。が苦戦していました。ある日、父親代わりに世話をしてくれていた、デザイン工場の社長をしている黒田に苦戦していることを話したところ、離婚したデザイナーの父である全に相談することを勧められました。全は黒田の工場でデザイナーとして働いていましたが、デザインを作れていませんでした。本文は、清澄と水青が黒田の工場に来て、全に相談に来た場面です。なお、黒田が視点人物となっています。次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。（字数制限のある問いは、句読点や記号も1字に数えます。）

玄関のドアを開けたら、濡れた草の匂いがした。最近やけに雨が多い。約束した時間ぴったりにやってきたふたりは、言葉少なに傘をたたんでいる。全もまた、いつも以上に無口で無表情で、ほとんど眠そうですらある。

一緒に入ってきたはずの清澄の姿がない。どうも工場がめずらしいらしく、あちこち見てまわっているようだ。水青はそれほど心細いのか、応接室のソファの手すりに掴まるようにしてうつむいていた。

つまさきで全の足を蹴る。よほど驚いたらしく、ソファの上で身体が軽く跳ねた。

「ひさしぶりやな」

滑稽なほどに声を裏返らせて、全がようやく娘に声をかける。まともに顔を合わせるのは、数年ぶりのことだろう。

「うん」

会話とも呼べないような会話が、すぐに途切れる。重い空気に耐えきれず、まだうろろしている清澄を呼び戻した。

清澄が取り出した仮縫いのドレスを、ボディに着せかける。実物を見てもやはり「給食着」という印象は変わらない。仮縫いはこれが二着目だという。一着目はすでに「納得いかななくて」ほどいてしまったらしい。

「ちなみにこれが着たところ」

清澄のスマートフォンの画面の中で、できそこないのドレスを着せられた水青が A 眉根を寄せていた。

「……ドレスにこだわる必要はないんですよ」

花嫁も花婿もタキシード姿の、海外の結婚式の写真を見たことがある。水青はしかし「紺……相手のお母さんが、ぜひ花嫁姿を見たいらしくて。だから」と首を振る。そんなもの無視してしまえばいいと思うが、これからつきあっていく相手の要望となるとそうもいかないものなのか。

「でも水青ちゃんは、ドレスを着ることに抵抗があるわけやろ？」

膝を折った清澄が、給食着の裾をしきりに引っぱっている。そうすれば、なにかヒントが見つかると思っているみたいに。

しっかりといて、堅実。悪く言えば地味。かたくな。水青からはいつも、そんな印象を受ける。

きつく唇を結んでこちらをまっすぐに見ている化粧つきの娘は、美しく装うことをなにかちらちらした行為のように捉えているのかもしれない。

そうなんか？ と問うと、水青が顔を上げた。

① 「そんな単純な話ではありません」

ドレスに罪がないことは知ってます、と続ける。罪ときたか。ずいぶんおおげさな言葉を使う。

25

「でも、リボンやレースやフリルやビーズの装飾も、身体の線が出るかつこうも、とにかく自分には似あわない気がするし、着てると落ちつかないんです」

「でも、とにかくドレスを用意せなあかん、そういうことやな？」

「そうです」

「そうです」

清澄と水青の声がそろった。

30

「ちよっとどいて」

ふいに放たれた力強い声が全のものだと、最初わからなかった。全は清澄を押しつけてボディの前に立つと、引きはがすようにしてドレスを脱がしはじめた。

35

部屋を出ていった全はやがて、大量の生地を抱えて戻ってきた。

「こっち来て」

壁際の鏡の前に、パイプ椅子を引っぱっていつて、水青に向かって手招きした。水青がおずおずとそこに腰かける。

「同じパターンでも、生地でずいぶん変わるんやで」

水青の肩にふわりと、シルクの布がかけられる。真っ白な生地が滝のようにまっすぐに床に垂れ下がった。

「どう？」

40

「……ちよつと苦手」

全は、そうやろな、と眩くらき、今度はジョーゼットの生地を重ねる。薄うすく透すけて、やわらかく身体そに添そう。

「そしたら、これもあんまり気に入らんのちゃう？」

「うん」

鏡の中で、水青の眉根がぎゅつと寄る。

「じゃあ、次。これは『タフタ』っていうねん」

ぱりつとしたはりのある、美しい布だ。縫製ほうせいの加減で、おもしろい陰影いんえいを生むだろう。しかし水青はかたくなに首を振る。

「たぶん、光沢こうたくのある生地が苦手なんやな」

チュール、シフォン、オーガンジー。つぎつぎと水青の肩に重ねられていく。さきほどの娘は「似あわない」と言ったが、そんなことはない、どれもよく似あう。

けれどもきつと、そういう表面的な問題ではないのだ。

②「落ちつかない、はあかん、水青。その感覚は大事にしたほうがええ」

全がコットンリネンの布を水青の肩にかける。指先が触れないように気をつけていることが、動きでわかる。ただそれだけのことなのに、胸がぎゅつと痛んだ。

「他人の目にかわいらしくうつるのは、けっこう簡単なことやねん。女の子って基本みんなかわいいからな。存在自体がか
55
わいい。けどな、本人が着とって落ちつかへんような服はあかん。座つとるだけでいらいらして、肩に力が入ってしまっ
56

て、疲^{つか}れてしまう。疲れると自分で自分が嫌^{きら}いになる。良^ようないわ水青、それは良^ようない」

全^{ぜん}がこれほど長い言葉を一度に口にするのは、ひさしぶりかもしれない。

③ 足元^{あしもと}が揺^ゆれるのを感じる。水面^{すいめん}が震^{ふる}え、湖畔^{こはん}の木々がざわめき、吹^ふいてくる風^{ふう}に鳥肌^{とりはだ}が立つ。

「これはガーゼ」

水青の眉間^{みけん}からいつのまにか力が抜^ぬけている。ためらいがちに指^{ゆび}を伸ばして、布地^{ふち}に触^ふれた。

「ふわふわしてる」

「うん、気持ちいいやろ」

そのやわらかさと軽さから、ガーゼはよくベビー服^{きょううしつせい}に用^{もち}いられる。吸湿性^{きゅうしつせい}に優^{すぐ}れ、重ねれば暖^{ぬか}かい。

ガーゼの生地^{きんち}がボディに巻^まきつけられた。全^{ぜん}は口^{くち}に咥^{くわ}えたピンをつぎつぎと留^{とど}めていく。平面^{へいめん}の布^ふは、つままれたり、折^ひりたたまれたりしながら、自在^{ざいざい}にかたちを変^かえていく。ギャザーが生まれたと思^{おも}ったら今度は、プリーツが出現^{しゅげん}する。花^{はな}が咲^さく。風^{ふう}をはらんだカーテンのように膨^{ふく}らむ。平面^{へいめん}の布^ふがまたたくまにドレスのかたちに変^か形^{けい}する。どこにもはさみを入^いれることなく。

隣^{となり}に立^たっている清澄^{しやうじやう}は、目を大きく見開^{ひら}いて父親^{ちち}の手元^{てもと}を注視^{しゆし}していた。

「黒田」

ボディに向^{むか}ったままの全^{ぜん}から呼^よばれ、思^{おも}わずびくりと身体^{しんたい}が震^{ふる}えた。

「幸田^{さいだ}さんか和子^{わこ}さんか、誰^{たれ}でもええから呼^よんで。採^と寸^{すん}してほしい」

和子さんはつかまらなかつたけれども、幸田さんはすぐに電話に出た。わけを話すと、すつ飛んできた。

俺と全と清澄は応接室から追い出され、廊下で待たされている。中から幸田さんの「あんたが全さんの娘さん！へ

え！」とか「お勤めは！塾！まあ！」という大きな声が聞こえてくる。ひとりでも十四人分ぐらいやかましい。

全がぶつぶつ言いながらスケッチブックをめくりはじめた。机まで歩く時間が惜しいのか、床にしゃがみこんでいる。そのまま這いつくばるようにして、鉛筆を走らせはじめた。

いつさいの装飾のないドレスだった。トラペーズラインと呼ばれる、裾に向かって台形に広がるシルエット。襟は控えめなUの字を描いている。長袖のカフスは大きめにとられていて、クラシカルな印象を与える。

左右非対称な裾は三角形をかたちづくる。下にもう一枚、スカートを重ねるつもりのようなようだ。シンプルでいて、地味ではない。カジュアルな素材を用いても、くだけすぎない。きっとあの子の良さを引き立てるドレスになる。

「全」

おかえり、と言うべきか迷った。どうにも芝居がかっているような気がして、口に出すのはてれくさい。でも、どっちにしろ今の全の耳には届かないだろう。

全はそれから、ぶっ続けて裁断と縫製をおこなった。幸田さんの連絡を受けて駆けつけた従業員ふたりがミシンを手伝った。わいわいがやがやとかしましくなる。

通常、仮縫いはシーチングを用いるが、全は実際のドレスの生地をいきなり使うと言った。たしかにそのほうがはやすい、

無駄がない。⑥ 清澄は作業に参加したいようで、全のまわりをうろうろして、みんなから「ちょっとどいて」を連発されていた。

「座つとけや」

見ていられず、腕を引いてソファに座らせた。

「水青ちゃん、ちよつともう一回着てみて」

水青が幸田さんと呼ばれていつて、応接室にふたりきりになった。

所在なげに、清澄が部屋を見まわす。応接室、といつてもめつたに客など来ない。棚には生地見本や雑誌が無造作につつこんであるし、そのほとんどが薄く埃をかぶっていた。

「僕とおばあちゃんは仮縫いまで何か月もかかったけど、あの人たちは一日でできんねんな」

清澄が放心したように呟いた。

「あたりまえや。プロやぞ」

わああ、というような声が聞こえてきて、部屋をのぞきにいった。

幸田さんたちと全が下僕のようにひざまずいており、すつくと立つ水青は童話のお姫様のように気高く、美しく見えた。

自分に合った服は、着ている人間の背筋を伸ばす。服はただ身体を覆うための布ではない。世界と互角に立ち向かうための力だ。

清澄が頬を紅ちようさせて、駆け寄っていく。なにごとかを言ったようだったが、聞きとれなかった。全がこれまたなに

ごとかを言い返して、それから清澄の頭に触れた。髪をかき乱された清澄が、ふわりと表情をゆるませる。

声が出ない。唇が乾いて、口を開いたらばりばり裂けてしまいそうだ。ほんの数メートルの距離が果てしなく遠い。

徒競走で転んで、砂まみれの姿でこっちに手を振っていた清澄。その瞳は、まっすぐに全だけを捉えていた。中途半端

に満たされていた父性のようなものはやっぱり「のようなもの」でしかなくて、彼らが笑い合う輪の中には、ぜったい入ることができない。そう思い知らされる。

結婚するということ、親になるということ。「ピンとこない」という理由で、どちらも追求することなく今日までやってきたけれども。自分の現状に不満があるわけではないのだけれども。

応接室に引き返して、静かにドアを閉める。

涙が出てしまいそうな気がした。気がしただけだ。こんなことでいちいち泣くわけがない、子どもじゃあるまいし。けれ

どもけれども言っていたって、過去は変えられないんだから。

ドアが開いて、清澄が入ってくる。さつきまで頬を紅ちようさせていたのに、その表情は暗い。

「どうした」

「いや……結局、ドレス、自分の手につくれなかったな、と思って」

隣に腰かけた清澄が、ふう、と息を吐いた。

「僕には、やっぱりまだ、はやかったんかな」

若者特有の感情の浮き沈みの激しさが鬱陶しくもあり、うらやましくもある。

棚から本を一冊抜き取って、清澄の膝に置いた。

「ホワイトワークって知ってるか？」

ホワイトワークは簡単に言えば、白い布に白い糸で刺繡ししゅうを施す技法だ。色を使わない素朴そぼくな装飾なら、水青の好みに合
いそうな気がする。

「刺繡に関してなら、全よりお前のほうが上ちゃうか」

⑦「……そう？」

清澄の頬が、ふたたび紅ちようする。

「他の本も見えていい？」

「もちろん」

民族衣装のデザインや伝統の刺繡や織物についての本ははんぶん趣味しゅみはんぶん仕事で集めていた。

日本の文様を収録した図案集を、清澄は立ったまま熱心にめくっている。

「気に入ったんなら、持っていつでもええから」

返事はなく、かわりに「ゴゴゴ」という音が響き渡った。腹か。今鳴ったのは、お前の腹なのか。

立ち上がって上着を羽織ると、清澄がふしぎそうな顔を上げる。

（寺地はるな『水を縫う』より）

問一 A (13行目) に当てはまる最適な表現を次より選び、記号で答えなさい。

- ア 眠そうに イ 満足げに ウ 不機嫌そうに エ 無感動に オ さびしげに

問二 ——— 線①「そんな単純な話ではありません」(24行目) とありますが、どのようなことを単純だと言っていますか。

35字以内で書きなさい。

問三——線②「落ち着かない、はあかん、水青。その感覚は大事にしたほうがええ」（52行目）と全が言うのはどう考

えているからですか。説明としてふ・さ・わ・し・く・な・い・も・の・を次より1つ選び、記号で答えなさい。

ア 女の子は基本的にみんなかわいいのだから、かわいらしくうつるために、気持ちが落ち着かないドレスを着ることはさけた方がいいと考えているから。

イ 着てみたら落ち着かないドレスは、違和感い わ かんがあつていらいらしてきて、着ている自分にまで嫌な気持ちを感じてしまうと考えているから。

ウ ドレスを着るときに力が入って疲れることは、着いても不快な気持ちにしかならず、体力や精神力を消費してしまふと考えているから。

エ ときには自分が落ち着かないと思うようなドレスにも挑戦するべきだという意識を持つ水青に、きびしく注意をしてやめさせようと考えているから。

オ 婚約者の紺野さんのお母さんがどうしても着てほしいから仕方なく着るドレスでも、着る水青が心地よくないもので我慢がまんしなくていいと考えているから。

問四 ——— 線③「足元が揺れるのを感じる」(59行目)とありますが、この表現の説明として最適なものを次より選び、記号で答えなさい。

ア 全が水青に作ろうとしているドレスのアイディアが浮かんでくる予兆として、これから全や黒田、水青にとって大きなことが起こる未来を感じさせる表現である。

イ 全の気持ちを感じ取った黒田が、水青のことをとても心配になって、全と水青との関係によくない影響^{えいきょう}が出ることを予期させる表現である。

ウ 水青の心の揺れが大きいことを表している情景であり、水青の気持ちがいかに不安定であるかを読者に感じさせる表現である。

エ 清澄や水青にとって良い父親になれなかった、全の後悔の大きさを感じさせ、何とか信頼を取り戻そうとする全の必死さを示す表現である。

オ 黒田がもう全と全の家族とは関わりを持てなくなることを感じて、今までの苦労が無意味なものになってしまうとむなしく感じていることを示す表現である。

問五 ——— 線④「俺と全と清澄は応接室から追い出され、廊下で待たされている」(74行目)のは、なぜですか。20字以内で理由を書きなさい。

問六 ——— 線⑤「おかえり、と言うべきか迷った」(83行目)のは、黒田がどう思ったからですか。説明として最適なものを

を次より選び、記号で答えなさい。

ア 全がデザインの腕がなまってしまって下手になっていたが、その技術が戻ってきたから。

イ 離婚りこんのショックで行方が分からなかった全が、黒田の工場に姿を現したから。

ウ もともとすぐれたデザイナーだった全にとっては簡単すぎるドレスだったから。

エ 長い間、デザインをしないでいた全が娘の水青のために仕事をしようとしたから。

オ 清澄がうまくいかなかったドレス作りを、全が簡単にできたことで、清澄が落ち込むと思ったから。

問七

——線⑥「清澄は作業に参加したいようで、全のまわりをうろろして、みんなから『ちょっとどいて』を連発されていた」(88行目)とありますが、清澄はなぜこのような行動をしているのですか。理由の説明として最適なものを次より選び、記号で答えなさい。

ア 水青のドレスを作ることを父の全に横取りされたように感じて、不快に思っじゃまをしようと思ったから。

イ 姉の水青のために何か力になりたいという思いが強く、ドレス作りに少しでも貢献したいという思いがあったから。

ウ 工場の人の動作が目に入らないくらいに全の作業に見とれていて、全の工程を盗み取ろうと思ったから。

エ 全の作業があまりに基本を無視しているので批判的になり、素直に自分が負けていることを認めたくないと感じていたから。

オ 姉の水青が父に対して感謝の気持ちを持っていることを感じ取り、自分も水青から感謝されてお礼を言ってもらいたいと目論^{もくろ}んでいたから。

問八 ――線⑦「……そう?」(125行目)とありますが、このように言ったときの清澄の感情の説明として最適なものを次より選び、記号で答えなさい。

ア 父親のような存在の黒田に、自分が全に敗北したことを見られてしまい、気まずさを感じながらも、今は少しその優しさに甘えたい気持ちになっている。

イ ドレスを作ることで、刺繍に関しても、全にはかなわないことは分かっているが、黒田の明らかなお世辞も信じてみたくなるような気持ちになっている。

ウ いつか父の全に勝てるようなドレスを作りたいという強い思いを黒田に見抜かれて、全に話されたらまずいと動揺して混乱した気持ちになっている。

エ ドレスを作ることに關しては全に完敗だったが、刺繍に關しては負けていないという評価を喜び、今後とも腕を上げたいと意気込む気持ちになっている。

オ ドレスの分野では全にはかなわないとあきらめていたので、刺繍を勧めてくれた黒田の言葉を運命だと感じ専門分野を変えようという気持ちになっている。

問九 ――線「服はただ身体を覆うための布ではない」(101行目)とありますが、この主張に対してあなたは賛成ですか、反対ですか。具体例を挙げながらその理由を100字以内で説明しなさい。

